

協力を得なければならない人を巻き込むにはどうするか 《行政課題解決セミナー》

みなさんの仕事は他の人や組織とつながっているのでしょうか？

仕事は誰か一人の力でできるものではないことがしばしば。他の人や組織の協力を得なければならないことしばしばあるものです。

でもみんな忙しいし、それぞれ目的は違うし、様々しがらみはあるし、そんななかで頼めばなんとかやるとは言ってくれたものの、もっと積極的に動いてほしかった、とモヤモヤすることもまたあるのかと。人や組織を巻き込むのはなかなか難しいものです。

では、人を巻き込むうまいやり方は本当なのでしょうでしょうか？(講師メッセージより)

《ワークショップレポート》

今回のワークショップでは、埼玉県教育局の取組、「越境×探究！未来共創プロジェクト」について議論しました。このプロジェクトは、教員等を対象に、地域や社会の人的・物的資源を活用した実社会からの学びの場、既存の枠から踏み出す「越境」の場と、地域課題の解決等を通じた「探究」の機会を提供するもので、令和3年度からプロジェクトを開始しています。

事業の担当者は、このプロジェクトにもっと積極的に参加してもらうにはどうすればいいか、モヤモヤされていました。

枠組みが決まっているような制約がある中で、どこから手をつけるか？制約が良い解決策を見つけ出す道具にもなる。

重大な困りごとって何？

岸良さんの問題解決のワークショップが始まりました。まず、プロジェクトの重大な困りごとを出します。発言された言葉を納得感のある言葉に何度も書き直ししながら、付箋にまとめていきます。

講師・ファシリテーター 岸良裕司



株式会社Goldratt Japan CEO。
全体最適のマネジメントサイエンスであるTOC (Theory Of Constraint:制約理論) をあらゆる産業界、行政改革で実践。最先端のTOC知識体系の、「楽しく」、「わかりやすく」、「実践的」な講義と、参加者をワークに集中させるファシリテーションから、たくさんの学びが得られると大好評である。

次に、どういう状況になればいい？

という質問で、望ましい現象を出していきま

す。
目標を設定することは難しい。望ましくない現象から言ってもらい、そこから望ましい現象を出す。現状と目標のギャップが問題。みんな現状を解決しにかかる。目標を見つめて、そこを達成しにかかれればいい。

問題が正確に定義された後、目標を達成するアイデアとして、先生にゆとりをもたらす「まほうのノート」、授業そのものを探究学習に変えてしまう道具「箱と矢印とバナナ」が岸良さんから紹介されました。

《今回の学び》

既に事業内容の大枠が決まっている状況であっても、そこで諦めずに、何が問題なのかを定義し目標を定めることが第1歩。それができれば、いくら制約があったとしても、目標を達成するアクションを皆で知恵を絞って考えることができる、勇気を貰いました。

《他の発表》

- ◆「災害廃棄物早期解決トライアル(素案) ~行マ研が与えてくれた2つの気づき~」
宇部市廃棄物対策課金子さん



全体最適の行政マネジメント研究会について

・ 全体最適のマネジメント理論TOC(制約理論)を活用し、「お金を使わず知恵を使って」を合言葉に、行政、民間の参加者が垣根を越えて、日本をよくするために知恵を出し合い、問題解決に取り組むNPO法人。そのセミナーは、身近な行政課題を題材に、TOCを実践的に学べる場となっている。

・ 次のセミナーは2022年6月18日です！！
<https://www.kokuchpro.com/event/20220618tocgyousei/>